

報告 1 エングスコーレン国民学校

貧民街の希望の学校

学習障害児の学ぶコペンハーゲン市営の国民学校・エングスコーレンを再訪した。学校には歴史がある。



1848 年、ヨーロッパは革命のなかにあった。

フランスやドイツで絶対王政は倒れた。マルクスは『共産党宣言』を発表。イタリア統一、ハンガリー、チェコ、ポーランドが揺れる。

デンマークでは、当時の人口で 10 人に 1 人が参加した 1 万 5 千人デモを契機に王政が放棄され、翌年に憲法が成立する。以後、グルントヴィーらのフォルケ・フォイスコーレ（国民高等学校）運動により、農民の連帯と労働運動によって、民主主義と福祉国家への道をあゆみはじめる。

エングスコーレンの玄関には、「1895」とある。革命から 50 年。市の人口は 15 万人から現在に近い 50 万人に激増している。大半は貧しい工場労働者だ。この学校は、120 年前、スラム街の貧しい家庭の子どもたちに教育を！と一人の女性が開設したそうだ。

学校に行けば、食堂があり、勉強も教えてくれる。そして時が過ぎ、軽度の障害児の学ぶ市営の学校になった。

糸賀一雄らが創設した近江学園も、戦災孤児といわれた子どもたちを貧困から救い、「腹をくちく」することがねがいの一つだった。そのなかには、当たり前のこととして知的障害児もいた。

コペンハーゲン中央駅裏の貧民街につくられたこの学校も、敗戦後の滋賀の近江学園も、その根底にある思想は、地下茎でつながっているようだ。すべての子どもには教育を受ける権利があり、それを社会は実現する責任がある。



デンマークの国民学校は、0 年生から 9 年生までの 10 年の義務教育だ。インクルーシブ教育が実施され、特別学校の割合は減り、特別学級も縮小の方向だが、賛否両論がある。特別学級には 3、4 倍の費用がかかる。経費削減のための施策ではないかとの批判もあるそうだ。

新校長のマリアが全体を解説し、授業参観後、給食を食べながら、さまざまな質問にこたえてくれた。

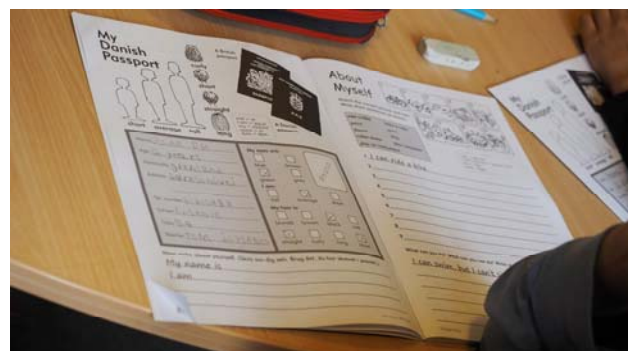
＊

30 年前、この場所に移転して「エング（野原の意味）スコーレン」になりました。特別学校としてのレイアウトを考えて改修し、教室は大きなスペースで、各部屋にキッチンをつくりました。

今は、理念も変わり、生徒たちのタイプも変わりました。間仕切りのボードやカーテンがあり、広くなく、狭いスペースで落ち着いて学べるように工夫しています。来年は大規模な改修をします。

ここには、学習障害児が 100 人通っています。IQ は 40 ～ 80。ADHD や自閉症などの子もいます。60 % が 17 カ国からの移民の子です。保護者の多くは生活保護などを受けて生活しています。

教師は 21 人。加えて 4 人の母国語（ソマリア・アラビア・トルコ語）教師。ペタゴー（生活支援員）が 3 人。今年 8 月 1 日から学校教育法が改正され、





ペタゴーが学校で働くようになりました。

1クラスは6～7人。友だちづくりが大切ですから規模が小さいです。意図的に15～20人グループでの授業もします。また、デンマーク語（国語）・算数・英語の3教科はとりわけ重視しています。



改正学校教育法の影響がどうなり、それをまたデンマークはどう修正していくのか興味はつきないが、インクルーシブ教育について質問した。

この学校では、インクルージョンの対象は、「障害」なのですか「文化」なのですか？ それとも両方なのですか？

マリア校長。「いろんな文化的背景をもつ子どものインクルージョンです。移民の子らはそれほど知的面で困難は少ない。デンマーク語に難があるため力が発揮できないのです」。



授業を参観したのは8歳～13歳の7名が学ぶ国語＋英語クラス。それぞれ微妙に違う教科書を使って、書くこと、しっかり話すことが重視されていた。

自己紹介で「今日は、わたしの誕生日です！」と



言うと、みんなで一緒に「ハッピーバースデー」を歌ってくれた。

＊

仲間と学び、仲間とおもしろい遊び。子どもは宝＝未来だから、社会は、できるかぎりお金も人材も投入する。

子どもたちの歓声がまぶしかった。

（以上、菌部英夫「みんなのねがい」2014年11月号掲載）

■マリア校長からのメール

I thank you for taking your time to visit Engskolen.
It is always a pleasure to show our work to guests.
Please contact me, if you would like to pay us another visit in the future.

Best Regards
Maria Bælum Mauria
Principal Engskolen



KØBENHAVNS KOMMUNE
Engskolen

■メモ：北欧の学校のよび方

○デンマーク＝日本の小学校＋中学校の学校を「国民学校」とよびます。

○フィンランド＝「（基礎教育の）総合学校」

○スウェーデン＝「基礎学校」



▲デンマーク語と英語のクラスは異年齢の子どもたちが少人数で学ぶ。写真は電子黒板の活用場面